

# 安足地域水稲技術情報 No. 3

令和6(2024)年8月23日  
安足農業振興事務所

高温が続いており、米の品質低下が懸念されます。

- 間断かん水を継続しましょう！
- 落水は出穂後30日以降としましょう！

## 1 今後の気象と注意点

気象庁の1か月予報(8月15日発表)によると、向こう1か月の平均気温は高い確率80%、降水量は多い確率50%、日照時間は少ない確率40%と予想されています(表1)。

6月中旬移植の「とちぎの星」の出穂期は前年並みとなりました(表2)。出穂期以降も高温が続いており、白未熟粒や胴割米の発生が増加しやすい状況です(写真)。米の品質低下を防ぐため、適切な水管理を行きましょう。

表1 関東甲信地方の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(8月22日気象庁発表)

気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)			
気温	関東甲信地方	向こう1か月 08/24~09/23	10 10 80
		1週目 08/24~08/30	10 20 70
		2週目 08/31~09/06	10 10 80
		3~4週目 09/07~09/20	10 20 70
降水量	関東甲信地方	向こう1か月 08/24~09/23	20 30 50
日照時間	関東甲信地方	向こう1か月 08/24~09/23	40 30 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

写真 玄米のタイプ



表2 水稲生育診断ほの調査結果(8月19日調査)

品種：とちぎの星	本年	前年
移植日	6月17日	6月16日
出穂期	8月19日	8月17日
葉色(葉色板)	3.9	3.5

## 2 これからの作業のポイント

### (1) 間断かん水を継続しましょう。

気象庁の予報では、今後も気温が高いと予想されており、米の品質を低下させる白未熟粒や胴割米の発生が増加する可能性があります。白未熟粒や胴割米の発生を少なくするためには、ほ場内の水温・地温を下げる事が重要です。足跡に水がたまっている程度まで自然落水し、気温が下がる夕方以降に入水する「間断かん水」を繰り返しましょう。可能であれば、掛け流しかん水も有効です(水利条件に応じて実施してください)。



図 間断かん水のイメージ

#### 【白未熟粒、胴割米の発生が増加しやすい基準温度】

白未熟粒・・・出穂後20日間の平均気温が27℃以上

胴割米・・・出穂後10日間の最高気温の平均が30℃以上、夜温(最低気温)が25℃以上

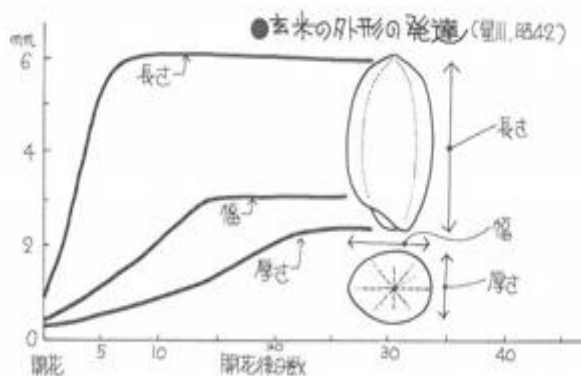
## (2) 落水時期は出穂後 30 日以降としましょう。

早期の落水は、乳白粒や胴割米の発生を増加させ、品質や食味を低下させてしまいます。登熟を高めるために間断かん水を継続し、落水時期は出穂後 30 日以降としましょう。収穫作業を優先した早期落水は厳禁です。

### 注意！

玄米の大きさが決まるまでには、出穂後約 4 週間かかります。早く落水したほ場の米は厚さが不十分で、粒厚の薄い米になってしまいます。

高品質米を生産するため、出穂後 30 日間は落水せずに、間断かん水で登熟させましょう。



出典：「安心イネづくり」（農文協）

## (3) 病虫害防除（斑点米カメムシ）

気温が高めに推移しているため、斑点米カメムシ類の飛翔移動が活発化し、水田への侵入が増加すると予想されます。水田内、畦畔および水田周辺の雑草を適切に管理するとともに、1 回目の薬剤散布後も斑点米カメムシ類が見られる場合は、追加散布を行いましょ

### ～農作業中の事故防止のため、熱中症対策をしましょう～

- ① 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行う。
- ② 熱中症予防グッズを活用する。
- ③ こまめな休憩、水分補給を行う。
- ④ 作業は複数で行い、体調に異常がないか確認し合う。

**農薬を使用するときは、ラベルをよく読み使用方法を守りましょう**

問い合わせ先

安足農業振興事務所 経営普及部 農畜産課

TEL: 0283-23-1431

URL: <https://www.pref.tochigi.lg.jp/g58/index.html>